



Tokyo University of Science



令和2年度 研究開発評価シンポジウム

「研究開発戦略の立案と研究開発評価のあり方」

～組織の目標・戦略から具体的な研究実施までの連結～

－内的動機による研究と応用・ミッション志向型研究の往来－

～九大と理科大での取組経験などから～

2021年3月9日

東京理科大学 副学長 若山正人

(国際化推進、データサイエンス教育・研究推進、学外連携担当)

若山 正人 (Masato Wakayama)

● 現職:

東京理科大学副学長・理学部教授
国立科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
国立研究開発法人・理化学研究所 数理創造プログラム 特別顧問
(九州大学マス・フォア・インダストリ客員教授)
九州大学名誉教授
専門分野: 数学(表現論, 整数論)

● 研究・教育歴:

九州大学教授(数理学研究科→数理学研究院・数理学府)1997.9 -2011.3
九州大学主幹教授2009.5 -2019.12
九州大学教授(マス・フォア・インダストリ研究所・数理学府)2011.4 -2019.12
東京理科大学教授(理学部第一部数学科) 2020.1 -

● 運営/経営的職務(現在から過去へ):

東京理科大学副学長 2020.1 -
九州大学理事・副学長2014.10 -2019.12
九州大学グローバルイノベーションセンター(改組・設立)センター長2016.10-2017.3
九州大学稲盛財団記念館 館長2014.10-2019.12
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所(創設)所長2011.4 - 2014.9
九州大学副学長(教育担当)2010.10 - 2014.9
九州大学数理学研究院長・学府長 2006.7 - 2010.7

本日のトピックス

－ 内的動機による研究と応用・ミッション志向型研究の往来－
～ 九大と理科大での取組経験などから～

1. 九州大学 全学的な取組みの一部 (p.5-9)
2. 九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 (IMI)
創設の背景とアイデア (p.10-14)
3. 東京理科大学 全学的な取組み (p.15-26)



九州大学と理科大の比較



Tokyo University of Science



	国立大学法人九州大学	学校法人東京理科大学
創立	1867年(賛生館ほか)	1881年(東京物理学校)
学生数	18,566	18,936
学部	11,679	15,821
大学院	修士3,981, 博士2,602, 専門職304	修士2,728, 博士288, 専門職99
専任教員数	2,088	766
論文数	30,697	9,096
著者数	16,029	6,284
FWCI	1.11	0.83
外部資金獲得額		
公的	科研費7,577(百万円)、 その他政府系14,668(百万円)	科研費1,024(百万円)、 その他政府系1,193(百万円)
民間	6,487(百万円)	939(百万円)

出典: 学生数及び専任教員数は、各大学HPの公開情報(ともに2020年5月1日現在)。

論文に関わるデータは、エルゼビア社のSciVal(2015~20年累計、全論文種、2021年2月上旬時点)。

外部資金額は、「大学ファクトブック 2020」(2020年6月、日本経団連・経済産業省・文部科学省)。

九州大学:

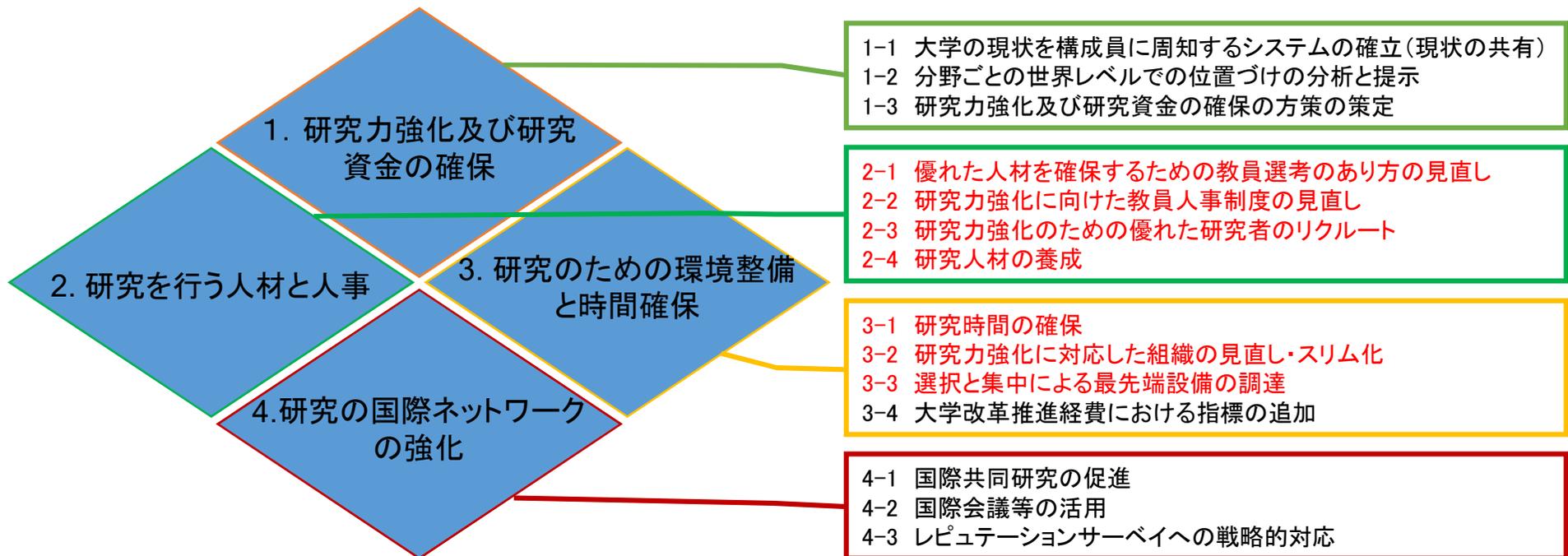
◆ グローバルな研究力強化



- ・世界社会科学フォーラム (WSSF2018) の招致 (九大主催)
- ・「国際法務室」(URAを1人配置)にて、リスクマネジメント及び外国人研究者・留学生の入口管理や国際法務・契約について支援
- ・研究の国際競争力向上のための4つの方策の実行プランを策定

研究の国際競争力向上のための4つの方策

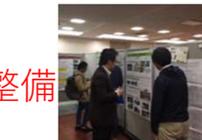
実行プラン



URAシステムの整備

URAの業務事例

- エネルギー研究教育機構, アジア・オセアニア研究教育機構の設置
 - ・強みを活かした**文理融合研究教育組織**を構築
- センターオブイノベーション事業
 - ・**異分野融合研究プロジェクト**の推進
- 科学研究費補助金支援体制の構築
 - ・基盤的研究の**支援体制の充実**、URA活動の認知
- 海外競争的研究資金獲得支援
 - ・海外資金への**申請スキームを新たに整備**
- 異分野融合研究マッチング交流会
 - ・**新分野の創出**を促進
- 組織対応型の産学官連携の推進
 - ・**産学官連携機能の強化**
- 博士後期課程学生就学・キャリア支援プログラム
 - ・産業界との連携により、大学院教育における課題設定・解決能力や他者と協働する力を向上させる手段として活用し、新しい学問分野や融合研究の創成や発展促進を図る
- 大学発ベンチャー事業シーズ育成支援プログラム（九大ギャップファンド）
 - ・**研究成果の社会還元**を促進するため、学内公募助成金として整備（H28年度）
 - ・起業に意欲的に取り組む教員等の自己の研究成果に基づく大学発ベンチャーの創出を促進
 - ・起業を目指した**九大初のギャップファンド制度**であり、**本務として遂行**が可能



情報発信

学内に対して

- 九大ギャップファンド学内説明会
 - ・本学におけるベンチャー創出支援の取組内容等について説明
- 科研費説明会
 - ・若手研究者を対象に実施
 - ・外国人研究者向けの説明会を実施
- 部局キャラバン（事業終了後のH29年度より）
 - ・各部局の教授会においてURAの役割や支援内容等を改めて周知
- 刊行物の発行
 - ・研究戦略データ集
 - ・科研費申請・獲得ハンドブック（和・英文）等



KYUSHU
UNIVERSITY



プログラムの概略図



◆学内支援制度①

QRプログラム(Qdai-jump Research Program)

基礎研究支援に加え、異分野融合研究や新学術領域創出につながる研究など、革新性・先進性を有する発展的研究を重点支援(平成28年度創設)

➡ 平成28年度は、採択41件・不採択112件、平成29年度は、採択48件・不採択128件

種目	概略
つばさプロジェクト	人文科学・社会科学分野の若手研究者が先導する異分野融合研究を支援
わかばチャレンジ	若手教員による、可能性を秘めた「挑戦的」な研究を支援
特定領域強化プロジェクト	アクションプラン等に基づき毎年度研究分野を指定し、当該分野における先進的な研究を支援
TTタイプ	テニュアトラック制教員支援
特別枠	人文社会系を中心とした機動的プログラム・プロジェクト支援

◆学内支援制度②

Progress100(世界トップレベル研究者招へいプログラム)

本学が既に世界に伍し、かつ優位性を有している研究分野において、世界の第一線級で活躍する研究者を招へいし、ユニット単位での国際共同研究を推進

➡ 国際共著論文数が増加し、国際的プレゼンスの向上、組織間の国際連携の推進に大きく貢献

種目		概略
通常枠	トップ100大学交流支援型	世界大学ランキングでトップ100に入る大学からの研究者を招へいする
	戦略的パートナーシップ構築型	本学と継続的・永続的な戦略的パートナーシップを形成する目的で事業を遂行する
チャレンジ枠	特定分野・戦略地域チャレンジ型	世界大学ランキングでトップ100に限らず、特定の分野、本学の国際戦略上、重要な地域への支援といった多角的方面から包括的に国際的プレゼンスを高める
	若手研究者グローバルリーダー育成型	本学の次代を担う優れた若手研究者を海外の著名な大学等へ派遣
	人社系学際融合リサーチハブ形成型(人社系RINK)	国際シンポジウム開催等への支援
TOPランキング先導枠		研究戦略性が高く、大学ランキングの向上を先導できる研究国際交流に対する支援

◆学内支援制度③

研究活動基礎支援制度

研究環境の多様性を促進するために若手研究者、女性研究者及び外国人研究者を継続的に育成・支援する取組(平成25年度から継続的に実施)

➡ 被支援者や参加者の満足度は高く、研究者の大幅なモチベーションアップへ

		概略
スキルアップ支援	スキルアップセミナー	自身の研究成果を国際的な場でより効果的に発表するためのスキル習得を目的とした講義とアクティビティ
	国際学会派遣支援	国際学会等に論文を発表する際に必要な経費を支援
	外国語校閲経費支援	学術雑誌に論文を投稿する際の英文校閲等に係る経費を支援
ライフイベント支援	研究補助者雇用支援 (短期、中期、教授・准教授)	社会貢献のための会合出席や、出産・育児・介護等のライフイベントにより、研究の遅滞や中断に至ることがないように、研究に専念する業務に従事する研究補助者を雇用する経費を支援
	出産・育児復帰者支援	出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるように研究活動を支援

日本の数学（和算） - 世界に先駆ける発見も

1603 →→→ 1868

江戸時代

- ・ 鎖国
- ・ 平和(戦争のない)時代



関孝和(1642-1708)

- ・ 1674 発見
行列式(←終結式) < (ライプニッツ1683)
ベルヌーイ数~ヤコビ・ベルヌーイとほぼ同時期

さらなる発見

- ・ 積分&微分~ニュートン,ライプニッツと同時期
(だが、微積分学の基本定理の発見には至らず ← 大砲の弾道計算などは不要であった : 応用の不在)
- ・ 数学に関する絵馬(算額) 主に初等幾何に関する数学的パズル
- ・ そろばん



日本の数学 - 明治開国から経済大国へ

→→1868 →→→ 1912
明治時代 (開国)

1926 →→ 1989 →→→昭和時代
(第二次世界大戦 1939-1945)

1989
→→→
平成・令和と
つづく

輸入数学:

ゲッティンゲン大学 →→ 純粋数学

工科大学 →→ 応用数学
(実験とともにあるため、明瞭ではない)

しかし、新規設立の大学 (工科大学) に、明示的
ではなかったが数学に強い伝統が脈々と:
機械工学 (含: 航空工学 etc.)
電気・電子工学、精密機械工学、など

→日本の高度成長の時代

ハイテク国家日本の発展の源

高性能コンピュータ以前～1990年代中盤

ヨ 大勢の優れた数学に強い工学系研究者
(日本では、数学者とは認識されず、欧米に行くと“応用”数学者とよばれることもあった)

1990年代中盤以降
{上記のような優れた応用数学者} ↓ 減少



マス・フォア・インダストリ研究所（IMI）の創設



2011.4 九州大学に Institute of Mathematics for Industry を設置

2013.4 文部科学省共同利用・共同研究拠点 『産業数学の先進的・基礎的研究拠点』認定

IMI（マス・フォア・インダストリ研究所）設置目的

- ① 産業界は数学の問題の宝庫 → 新しい数学研究領域・テーマの誕生 “輸入”
- ② 純粋数学を含めた最新数学成果の現実の問題への応用 “輸出”
- ③ 数学系博士学生の新しいキャリアパス開拓・人材育成 “持続的な発展・進歩”

マス・フォア・インダストリ研究所 (IMI) の創設

なぜ IMI(2011-)を設立したのか？

1. 純粋数学(内的動機による)研究だけでは、いかにそれが大切であろうとも (もちろん大切!) , 未来からみれば**数学の半分**かもしれない.
2.
 - ① **新しいタイプの数学博士**の育成と活躍の場の創出
 - ② 産業界に数学研究の意義を知ってもらうこと
 - ③ **産業界で数学を武器に研究開発に従事**することのアカデミアの数学者のそれに比肩する意義
 - ④ 私たち数学者の**決意が本気**であることを産業界を含め内外に発信 (**やってみたい気持ち**)
3. 社会からの**必要が数学技術の真の発展を生むはず** (**数学が検証する確実性など**) .

余談1: マス・フォア・インダストリ研究所
(**MASS-FOR-INDUSTRY???**)

Math (**マス**) sounds **Mass** (**マス**)
Mass may imply **Big Data**

余談2: 最初の公式訪問者：**米国DARPA**
(設立3ヶ月後に訪問の意向) .
共同研究はできない旨を事前に伝えた.
その上で、2011年9月に
在日空軍・海兵隊技術将校とともに来学.)

- Weapons of Math Destructions, Cathy O'Neil 2016 (cf. ELSI)

マス・フォア・インダストリ研究所 (IMI) の創設

マインドセットの変化を促す

やってみよう！

興味があるからやるというよりは、やるから興味ができる
場合がどうも多いようである。



東京理科大学イメージキャラクター
坊っちゃん & マドンナちゃん



水島寒月



寺田寅彦
1878-1935
物理学者 (東京帝大教授),
随筆家・俳人(夏目漱石門下)

試してしてみよう！

学問のある所に技術は育つ、技術のある所に
産業は発展する、産業は学問の道場である

本多光太郎
1870-1954
物理学者・冶金学者 (KS Steel: magnetic resistant steel)
(東北帝大総長 & 東京理科大学初代学長) : 写真の左側.



Mathematicsの語源：古代ギリシャの“マテマタ”=考えること、知識、科学 ⇨ 学問



Institute of Mathematics for Industry
Kyushu University



東京理科大学の概要



東京理科大学

創立:1881年(旧東京物理学校)

4キャンパス (7学部31学科, 9研究科31専攻)

- 東京 神楽坂 : 理学部第一部・二部、工学部
経営学部, 大学院, 専門職大学院
- 葛飾 : 工学部, 基礎工学部, 理学部第一部, 大学院
- 千葉 野田 : 薬学部, 理工学部, 大学院、
生命医科学研究所, 総合研究院
- 北海道 長万部 : 基礎工学部1年生の全寮制教育(300名)
- 専任教員数 : 約770名
- 学生数 : 約19,000名

東京物理学校の建学の精神
「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」



東京理科大学 初代学長 本多光太郎

教育力私大No.1
教育力が高い大学
ランキング

研究力私大No.1
研究力が高い大学
ランキング

就職力全国No.1
卒業生4,000人以上
就職率大学ランキング

1	東京大学
2	京都大学
3	東北大学
4	東京理科大学
5	国際教養大学
6	国際基督教大学
7	慶應義塾大学
8	東京工業大学
9	大阪大学
10	名古屋大学

全国私大 **1位**

(2018年大学通信調べ)

1	東京大学
2	京都大学
3	東北大学
4	東京工業大学
5	名古屋大学
6	大阪大学
7	九州大学
8	筑波大学
9	東京理科大学
10	北海道大学

全国私大 **1位**

(2018年大学通信調べ)

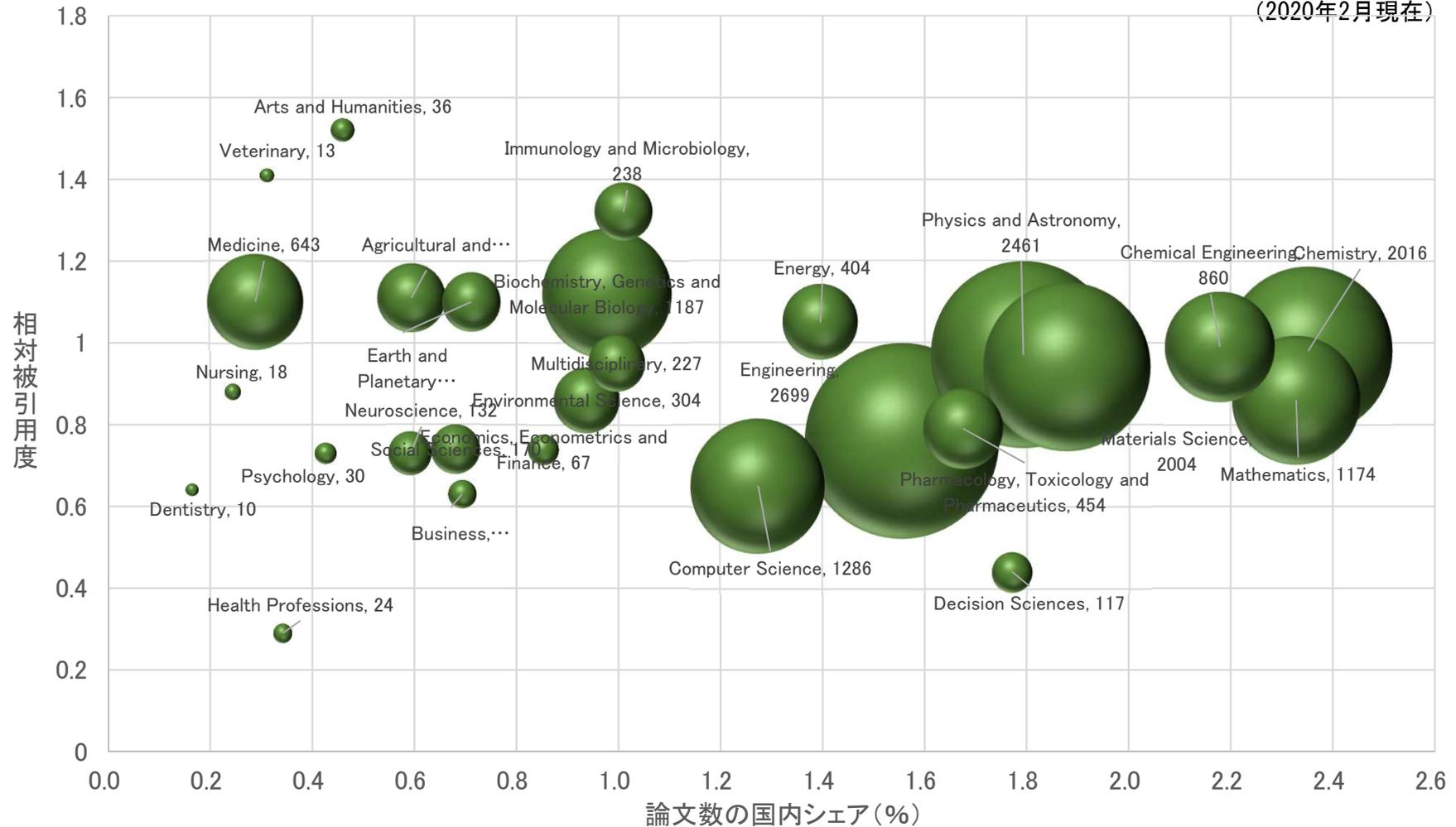
1	東京理科大学 [※]
2	関西学院大学 [※]
3	近畿大学 [※]
4	青山学院大学 [※]
5	龍谷大学
6	中央大学 [※]
7	法政大学 [※]
8	東洋大学
9	関西大学 [※]
10	神奈川大学 [※]

全国 **1位**

※大学院修了者含む (2018年大学通信調べ)



(2020年2月現在)



- ※エルゼビア社のSciValにより分析（全論文種17,201件が対象）。
- ※分野分類は同社のSubject Area(27分野)に基づく。
- ※バブルの大きさは各分野における本学からの発表論文数を表す(分野名に続く数字が論文数)。
- ※相対被引用度は、分野等による被引用度のばらつきを平準化した相対値で、世界平均が1.0となる。
- 本学論文の全分野での国内シェアは1.25%。

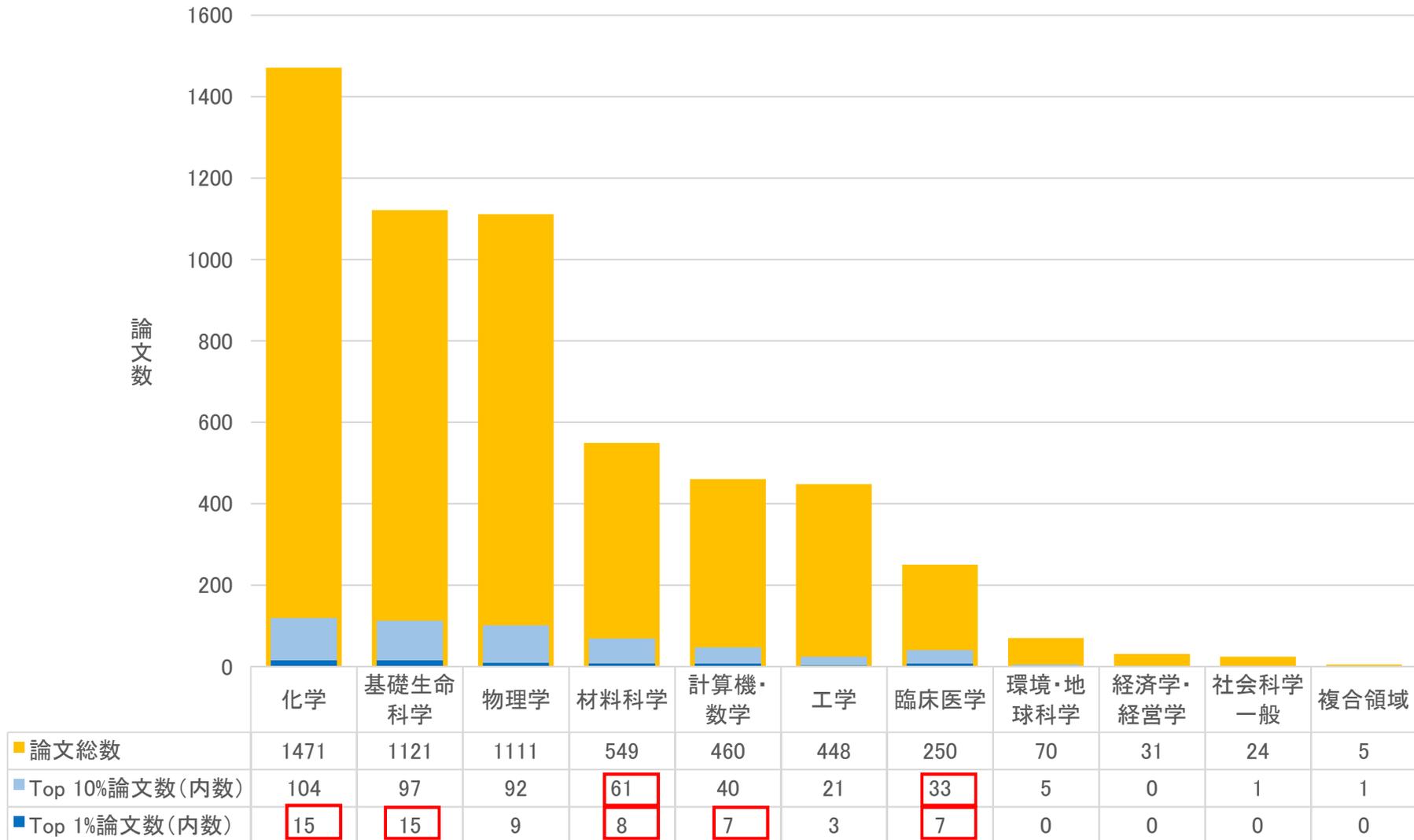


分野別の発表論文総数と被引用トップ論文数 (2014～2019年累計)



Tokyo University of Science

(2019年2月現在)



※クラリベイト・アナリティクス社「InCites Benchmarking & Analytics」(InCites)により分析。分野分類は、前ページの分類方法による。

- 被引用トップ10%論文の輩出割合が10%以上の分野は**材料科学**、**臨床医学**。
- トップ1%論文の輩出割合が1%以上の分野は**化学**、**基礎生命科学**、**材料科学**、**計算機・数学**、**臨床医学**。

《世界をリードする創造的研究拠点の構築》

◆研究における世界的プレゼンスの向上

理科大ならではの独創的・分野横断的研究の戦略的推進

国内・国外研究機関との連携の強化

研究の見える化と研究成果の世界への発信の強化

◆外部資金獲得の
増加科研費・公的資金・民間資金
の増加◆世界に通用する
多様な研究人材
の育成・獲得トップレベル研究者の育成・
獲得優秀な若手・女性研究者の
育成・獲得◆研究環境・支援
体制の整備研究機器センターの戦略的
運営

URAセンターの機能強化

「理科大ならではの」の研究を世界レベルで展開し、「日本の理科大」から「世界の理科大」へ発展することを目指す。

(1) 強みを活かして取り組む重点課題

環境・エネルギー

- ✓ 次世代太陽光発電技術、創・畜・省エネルギー等の観点で人類共通の環境問題の解決に貢献

共同利用・共同研究拠点：光触媒国際研究センター
火災科学研究センター

【複合型】平成29年度文部科学省私大ブランディング
「スペース・コロニー研究拠点の形成」

ものづくり・計測技術

- ✓ ものづくり・計測技術の発展による我が国産業への貢献

平成28年度文部科学省私大ブランディング
「材料表面・界面における水の学際研究拠点の形成」

トライボロジーセンター

(2) 新たな強みとするべく取り組む重点課題

医療・生命科学

- ✓ 他大学医学部との連携
- ✓ 理・工・薬・医連携による研究の推進

AMED：革新的創薬技術開発

JST STARTプログラム「ケミカルノックダウン法」

農水・食品

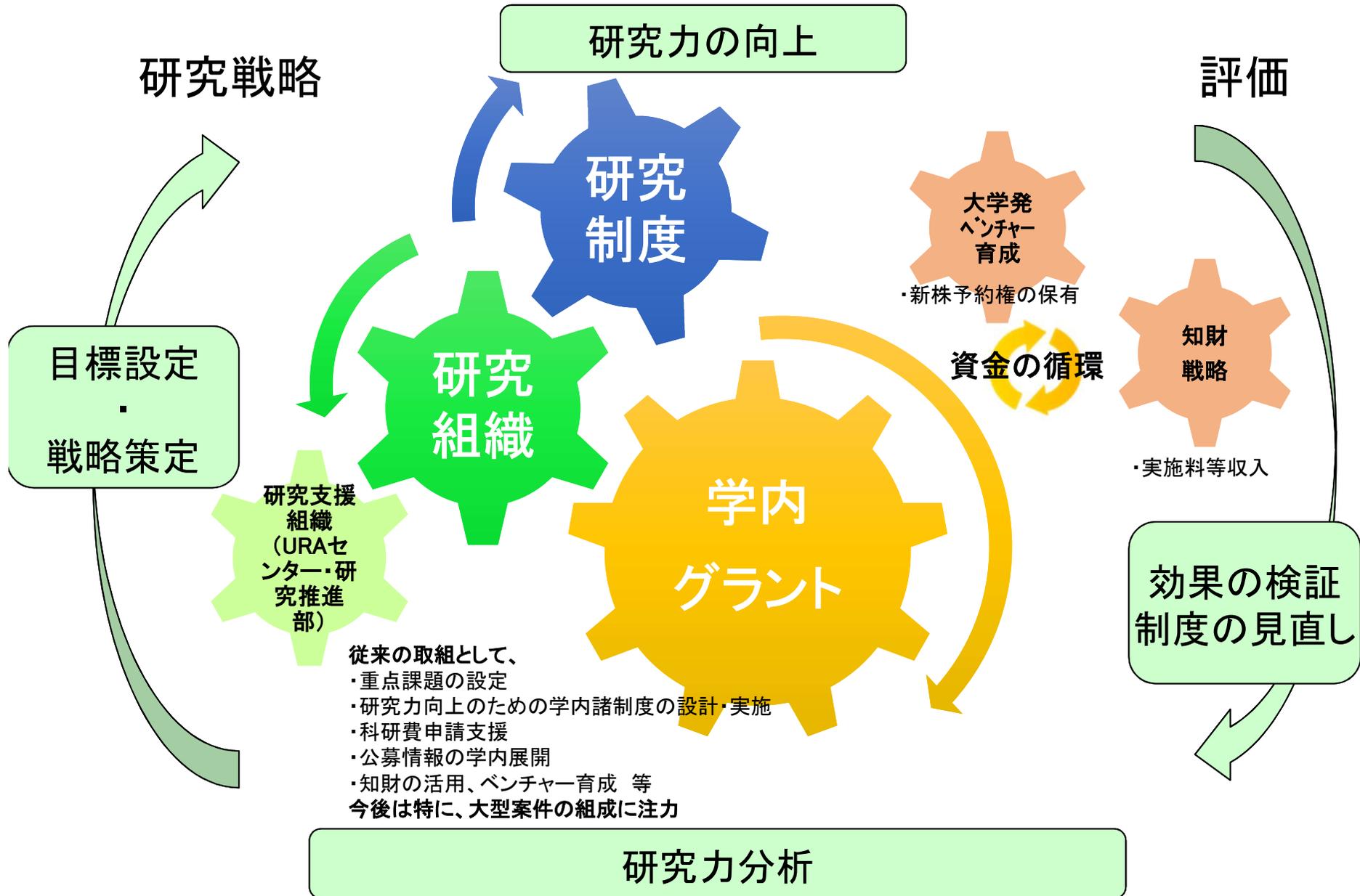
- ✓ 農林水産物の高機能・高付加価値化
- ✓ 生産・加工・流通システムの高度化

農林水産省：「革新的技術開発・緊急展開事業」

超スマート社会技術

- ✓ AI、IoT、ビッグデータ、ロボット技術の研究開発を推進

地方自治体（大分県 国東市）：建築IoTシステム





学内グラント



○学内の優れた研究活動を支援するため、学内公募によって選定されたテーマを助成。

名称	区分	補助対象	採択件数 /応募件数	
学長特別 研究推進費	強化枠	本学のもつ強みのより一層の強化または新たな強みの創出を目的とした戦略的な研究活動をしている単独の教員または2名以上の教員群が行う研究課題	補助期間中又は補助期間終了後速やかに推進費の申請額の倍額程度の外部資金獲得が期待できる研究課題	2件 / 10件
	分野横断・連携枠	分野や学部等の枠を超えた教員の発意に基づく分野横断的な連携研究の推進を行っている2名以上の教員群が行う研究課題		3件 / 9件
国際共同 研究支援費	—	本学の単独の教員または2名以上の教員群が海外の大学や研究機関に所属する研究者と共同で行う研究課題。補助期間中又は補助期間終了後1年以内に国際共著論文を1報以上研究成果として公開できるもの	7件 / 25件	
若手・ 女性研究者 助成金	若手枠	顕著な成長が期待できる若手教員が行う研究課題（2020年4月1日において39歳以下）	7件 / 60件	
	女性枠	顕著な活躍が期待できる女性教員が行う研究課題	4件 / 22件	
特定研究 推進費	—	本学において強かに推進する必要がある研究テーマ（世界をリードする創造的研究拠点の構築ができ、先端的かつインパクトの大きな研究）	4件	

※ 上記は2020年度の募集。

※ 補助期間は、原則として補助決定日の年度を含む2箇年度。



学内グラント TUS COVID-19チャレンジ2020



- 三井住友信託銀行が2020年5月に創設した「新型コロナワクチン・治療薬開発寄付口座」による寄付を受けて、学内の新型コロナ関連研究を推進するため、「TUS COVID-19チャレンジ2020事業」を実施。

東京理科大学
COVID-19 RESPONSE
新型コロナウイルス
対応情報
特設サイト

PRESIDENT MESSAGE

新型コロナウイルス感染症終息に向けて、大きく世界と連携し、東京理科大学の英知を集めて、困難な課題に立ち向かいます。

学長 松本 洋一郎

感染症に対する
TUSの研究
RESEARCH ABOUT
INFECTIOUS DISEASE

D TO COVID-19 AT TUS

研究・医療機関との共同研究により、新型コロナウイルスの治療薬候補を発見。
薬学部 生命創薬科学科 青木 伸教授
理工学部 応用生物科学科 倉持 幸司教授
READ MORE >

RNA編集を活用して新型コロナウイルスの治療法を確立する。
研究推進機構 生命医学研究所 櫻井 雅之講師
READ MORE >

換気システムの有効活用が、Withコロナ時代の健康維持につながる。
工学部 建築学科 倉測 隆教授
READ MORE >

○研究テーマ例

- ・ 新型コロナウイルスの交差反応性抗体の検出システムに関する研究開発
- ・ 理科大の化学の力を活かした新型コロナウイルス治療薬の開発

- 近年, 大学教員の職務活動の中で, 研究活動に係る時間の占める割合は著しく減少し, 私立大学では3割を下回るなど, 教員が十分な研究時間を確保できない状況にあることや, それに伴う大学の研究力の伸び悩みが社会的な課題.
- 本学では, 優れた研究力を有する, 又は今後有することが期待できると認められる**教員の公務負担を減免し, 研究に専念できる時間を捻出する措置をとること**で, 研究力向上や, 世界に通用する研究者の育成に資することを目的とし, 2020年度から試行的に実施.

対象者：文部科学省科学研究費助成事業 新学術領域研究の採択者（当時）

支援措置（3年間）：

	対象者への支援	対象者の所属部局への支援
1	公務負担の一部減免を認める (授業, 補職, 委員会, 入試, 会議出席)	非常勤講師及びTAの新規雇用を認める
2	PD 1名の雇用を認める	嘱託教授（非常勤扱を含む）の活用を認める ・ 幹事（FDまたは就職）の補佐 ・ 入試関係業務の担当
3	他機関（国内外）での研究を認める (学生指導に影響のない範囲に限る)	

研究制度：社会連携講座（大型共同研究＋寄附講座）

- 民間企業等の学外機関との連携により、一定期間継続して特定の課題や専門分野に関する教育研究の推進及び充実を図り、人材育成を活性化させ、学術の推進及び社会の発展に寄与する。



設置年度	企業名／学部	講座名称	設置期間
2020年度	一般財団法人化学及血清療法研究所／薬学部	医薬品等品質・GMP講座	2020年7月1日～ 2023年6月30日
2020年度	Hexagon Manufacturing Intelligence／工学部	デジタルツイン学術研究講座	2020年10月1日～ 2023年9月30日
2021年度	A G C株式会社／基礎工学部	無機・非晶質材料創成学研究講座	2021年4月1日～ 2026年3月31日

社会連携講座でできること

研究 	<ul style="list-style-type: none"> 契約に基づく共同研究の実施及び研究成果の共有 企業からの共同研究員の受入れ 新たな研究者の雇用 企業の名称等を冠した研究室の設置
教育 	<ul style="list-style-type: none"> 研究室における学生指導を通じた人材育成 企業の名称等を冠した授業科目等の開講（単位付与を含む）
名称 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の名称等を冠した社会連携講座の設置 企業の名称等を冠した授業科目等の開講（単位付与を含む） 企業の名称等を冠した研究室の設置



- 大学の研究水準の向上と我が国および世界への貢献をめざした連携・協力組織として、学長の下に「研究推進機構」及び「総合研究院」を設置。
- 「総合研究院」では、研究者の発意により新たな研究領域を形成する「研究部門」、「懇談会」と、大型の公的・民間資金をベースに設置される「研究センター」等により、理科大ならではの研究を推進。



研究力強化プラン ～東京理科大学の研究力を引き出しさらなる高みへ～

2020年4～5月に行った「教員の教育・研究時間調査」の結果（2020年6月11日教育研究会議報告）と、2019年7～8月に行った「学長室と学科主任との意見交換」の結果（2019年11月14日教育研究会議報告）を踏まえ、学長室では、**劣化した時間を取り戻す**（時間こそが研究者にとって価値を生み出す源である）とともに、**次代を担う人材を確保・育成**することこそが最重要課題である位置付けた。その実現のため、**教職員の意識・行動変革を基盤**に置き、「**研究時間の創出**」と「**優れた研究人材の確保と若手研究人材の育成**」を**改革の2本柱**に据え、「**東京理科大学の研究力を引き出しさらなる高みへ**」を改革ビジョンとした「**研究力強化プラン**」を実行する。

研究力強化
プラン

【改革ビジョン】

東京理科大学の研究力を引き出しさらなる高みへ

大学・学部・学科等全体としての
研究時間の創出
(業務の“断捨離”)分業や権限委譲等を取り入れ
教職員みんなで時間を創り出そう！

【具体的な施策例】

- ・授業担当時間数や時間数算出方法の見直し
- ・教育内容と方法の見直しによる、時代に対応した教育の推進
- ・権限の委譲・委託、委員会の改廃等による管理運営業務の効率化
- ・教員が担う事務業務の合理化・効率化 等

優れた研究人材の確保と
若手研究人材の育成
(助教・PD・博士課程学生等)自らを超える優れた人材を集めよう！
若手を育成しよう！

【具体的な施策例】

- ・柔軟な人事制度への転換
- ・若手のキャリアパス支援策の充実
- ・経費支援策の充実（処遇の向上等）
- ・所属研究室の垣根を超えた研究環境の整備 等

教員の意識・行動を変革することを基盤（土台）に置く 【事務職員も同様の意識・行動変革を行い「教職協働」を実践する】

- ◆細切れでない（まとまった）時間こそが研究者にとっての価値を生み出す源であるという意識を明確に持ち、教職協働により劣化した時間を取り戻す
- ◆次代を担う優れた研究人材を確保するとともに、若手研究者に対しては自立性を尊重しながら十分な研究時間と将来性に配慮した指導・支援を行う
- ◆大学(学長室・各学部・事務総局等)が一体となって、With/Afterコロナ時代における教育・研究・管理運営の新たな方法を考案する 等



ご清聴ありがとうございました